

幼児期から少年期における効果的な応急救護指導教材 の開発について

東京消防庁（東京） 八櫛 徳二郎
川村 智洋
田中 秀明

私達は、将来の更なる救命率向上を目的として、幼児期から少年期にかけて大きな学習効果が期待できる幼児向け応急救護教材の絵本を作成しました。

絵本を作成するに至った経緯と検証結果について説明します。

平成23年に救命入門コースが導入され、小学生等に対して応急救護技術の普及が全国的に進められているところですが、現在まで統一された指導方法が確立されていません。この現状を改善すべく、少年期の教育者である小学校の教員方と指導方法について検討を重ね、効果的な指導要領を作成するなど、様々な取組を行っていました。その中で、事前学習というキーワードが浮かび上がってきました。少年期の事前学習とは、幼児期に絵本を読むこと、父親や母親にお話を聞かせてもらうことなどであり、特に幼児期から小学校低学年までに読んだ絵本による事前学習には大きな影響があることが分かりました。

しかし、消防の視点から検討すると幼児向けの応急救護教材は整備されておらず、幼児に対する統一された指導がなされていません。このことから、幼児向け応急救護教材として絵本を活用することで、少年期の事前学習として大きな効果が期待できるため、本開発を開始することとなりました。

まず、絵本がどのような経緯でこの形と内容になったのかを説明します。

絵本を作成するに当たり、子供達を惹きつける魅力あるデザインで、かつ理解しやすい内容にすることをポイントとして考えました。子供達の興味をひきつけて話に集中させるためには第一印象でのインパクト

トが重要であることから、絵本の外観を救急車の形にして、1 ページ目は救急車のドアを開くデザインにしています。そして、子供達が理解しやすく話に入り込むことができるように、同年代の少年が主人公であるストーリー仕立ての内容にしています。このストーリーを作成するうえでのポイントは、理解力のキャパシティを超えないようにするため、以下の4 点に重点を置きました。それは「けが人に近づく前にまず自らの安全確保のために周囲の状況を確認すること」、「けが人や急病人を発見した場合は勇気を持って声掛けをすること」、「急病人やけが人がいることを大人に知らせること」及び「1 1 9 番通報をすること」です。

これにより、内容が難しくなり過ぎず子供たちでもすぐに実践できるような内容になっています。さらに、絵本の内容に次いで重要な絵の色合いについては、幅広い年代や職種の方からアイディアを集め視覚的により効果的な色合いを採用し、視覚から子供たちに訴えることができるように試みました。

以上の研究結果から幼児向け応急救護教材の「絵本」を作成して、保育園へ持って行き、保育士に読み聞かせをしてもらい、効果を検証しました。また、絵本の内容について改善点がないか保育士にアンケートを実施しました。その結果から、1 ページ内に三つから四つ入っていた絵を一つにして簡略化し、文字を少なく大きくして分かりやすく改善しました。そして、内容が難しいとの意見から、A E D や心臓マッサージなどの理解しにくい内容については省くことにしました。省いた内容については小学生や中学生になったときに勉強してもらうということに方針を転換することになりました。結果的に少し難しい内容の小学校低学年向けと、内容がシンプルで分かりやすい幼児向けの二つの絵本が完成することになります。

次に、小学校低学年向け絵本の各ページについて詳しく説明します。1 ページ目と2 ページ目は導入です。「救急隊員が大切なお話をするよ」という内容を伝えます。

3 ページ目からストーリーが始まります。3 ページ目は、少年が公

園の遊具（すべり台）から落下し、泣いているところを同年代の少年が発見し、声を掛ける内容にしています。ここで最も重点を置いているポイントは、子供が急病人やけが人を発見した際には「大丈夫？」と声掛けをして、大人を呼ぶということです。

4 ページ目は、子供が自宅で苦しそうにしているおじいちゃんを発見するストーリーにしました。子供が急病人やけが人を発見しても大人が誰もいない場合には、大人を呼んでくることが最も重要であることから、前ページと同様に子供が大人を呼んでくる内容に重点を置いています。さらに、大人が誰もいないことを想定し、子供が救急要請できるよう電話の絵と 1 1 9 の番号をセットにして救急車を呼ぶ内容まで教養を発展させています。

5 ページ目と 6 ページ目は、まず周囲の確認をして自らの安全確認を優先することを教養する目的から、少年が交通事故に遭ってしまうストーリーにしています。ページ内には絵が三つずつあり、三つの場面に分かれています。少年がけがをしている子供に近づこうとしているところへオートバイが近づいてきて危険に遭遇してしまう内容とすることで、先にも述べた、まず周囲の確認をして自らの安全確認が優先されることを強調した内容にしています。

そして、子供が大人を呼んでくる場面を繰り返し盛り込むことで、大人を呼ぶ重要性を強調し、まず子供達ができるべきこととしての知識定着を図っています。

7 ページ目と 8 ページ目は、1 1 9 番通報の訓練ができるページとなっています。ここでは、電話のボタンを大きめに表示して 1 1 9 番を押す模擬訓練ができます。このことにより、読み聞かせを行っている途中で子供達にボタンを押す訓練を実施させることができます。

9 ページ目と 1 0 ページ目では、動かないおじいちゃんを発見した少年が、大人を呼んできて、大人が A E D を使用し心肺蘇生を行う内容になっています。A E D を使用した心肺蘇生法は理解して実践することが難しいことから、呼んできた大人が助けてくれる内容だけに絞って簡略化しています。これは、A E D という機器の存在を認知させ

ることを事前学習の目的としています。そして、最後は救急車の中に積載されている資器材を紹介して絵本を締めくくりました。

次に幼児向け絵本の詳しい各ページの内容について、小学校低学年向け絵本との相違点を中心に説明します。

3 ページ目と 4 ページ目は、具合の悪いおじいちゃんを少年が発見し、大人を呼んでくる内容のみとなっています。小学校低学年向けと比べると、絵を大きくして 1 ページに一つとし文字を少なくすることで、見やすく理解しやすいように簡略化しています。5 ページ目以降も同様に、内容を簡略化し、見やすく理解しやすいようにしています。そして、先にも述べたように、小学校低学年向けとの大きな違いは A E D を使用した心肺蘇生法について内容が理解しにくいことから全く触れていないということです。

この二つの絵本を近隣の保育園に持って行き、子供達に対し救急隊員が読み聞かせを実施しました。119 番のボタンを押す訓練を実施するページでは、子供達が次から次へと「119 番を押したい」と申し出てくる状況になり、一度だけでなく二度三度訓練をしたいという子供達が出てくるほど大盛況となりました。保育士からも子供達がこれほど熱中して訓練を行う様子はなかなか見ることができないという評価を頂きました。また、当初保育士が読み聞かせを行っていた段階の意見として、理解させることが難しいと言われていた小学校低学年向け絵本での幼児（3 歳児）に対する読み聞かせを行った結果、十分に内容を理解させることができ、保育士の意見としては、小学校低学年向け程度の内容であっても話す側に知識があれば、幼児に対して十分に理解させることができるのではないかというものでした。

今回の教養効果を確認するために、子供達に対して読み聞かせた内容を覚えているかどうか 3 か月後から 5 か月後の確認を実施しました。確認の方法は、以前に読み聞かせを行った保育園児のうち約 60 名に対して、教養効果を確認するために作成したチェックシートに基づき、救急隊員が個別面談形式で質問をする方法で、絵本を作成するに当たり重点を置いた四つのポイントを言えるかどうかで確認を行いました。

チェックシートの内容は、①「けがをしている人や、苦しんでいる人を見つけたらどうしよう」、②「けがをしている人や、苦しんでいる人を見つけて、声を掛けた後はどうしよう」、③「道路で人が倒れているのを見つけたら、まず何に気をつけよう」④「救急車を呼んでみよう」、以上の四つの質問を答えることができるか否かをチェックするのみの単純なものです。

チェックシートの結果は、全問に答えることができたのは全体の約18%、2問以上に答えることができた（全問正解を除く。）のは約70%、1問のみ正解したのは約10%、全て答えることができなかったのは約2%というものでした。保育士の方々からは、口頭の説明を一度しただけではここまでの知識定着は難しいため、絵本の効果が大きいと評価されました。さらに、個人面談形式の調査で緊張する中、よく記憶しているという結果が得られました。

今後は、この絵本が教材として保育園や幼稚園に配布され、更には一般家庭にも届き、幼児に対する応急救護教育が確立されるよう発展させていくことが必要であると考えます。消防署では小学校に対する救命入門コースのように、園児に対する応急救護の教育として職員が読み聞かせに行き、更なる知識定着を目指します。

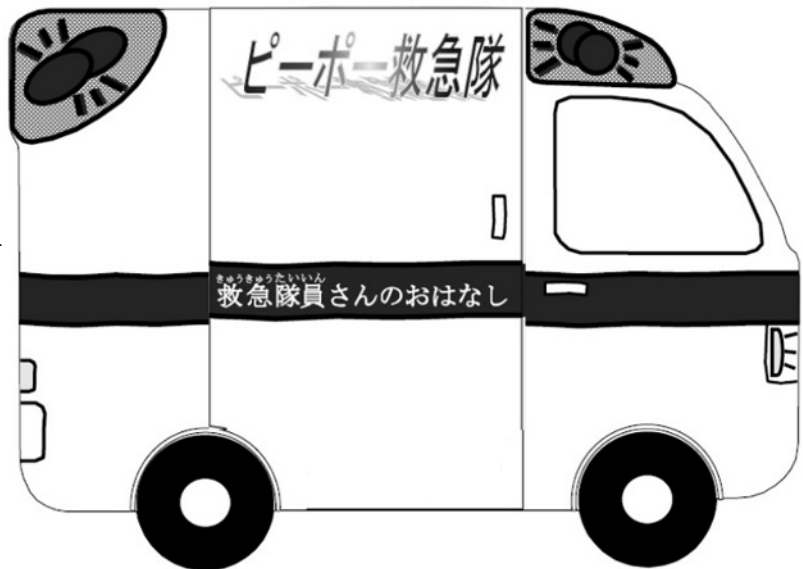
このように幼児に対する応急救護教育が確立されることで、小学生に対する救命入門コースの事前学習が充実し、より教養効果の高い少年期の応急救護教育が実施できるのではないかと考えます。

開発機器説明図

1 表紙（スライドドアの1ページ目を閉じた状態）

幼児向け、小学生向けデザイン共通

外形寸法は配布用が
A4用紙サイズとし、
職員による読み聞かせ
用がA3サイズです。



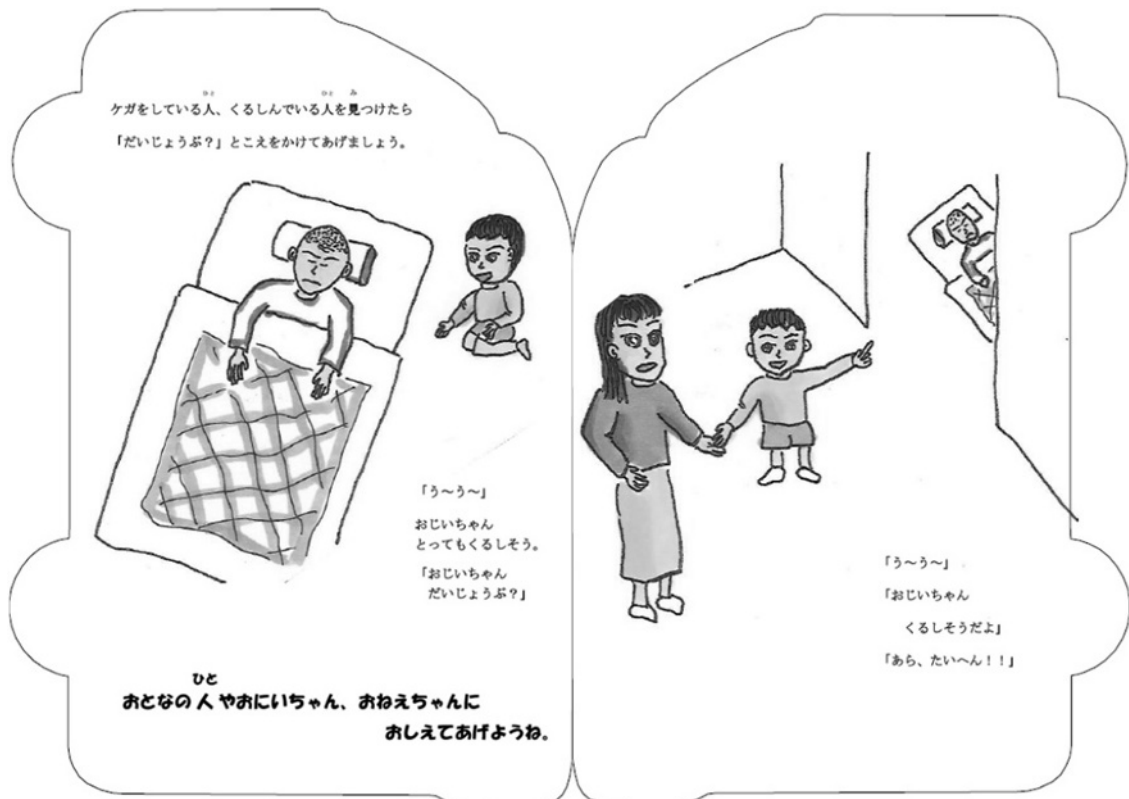
2 1～2ページ

（スライドドアを開いた状態）

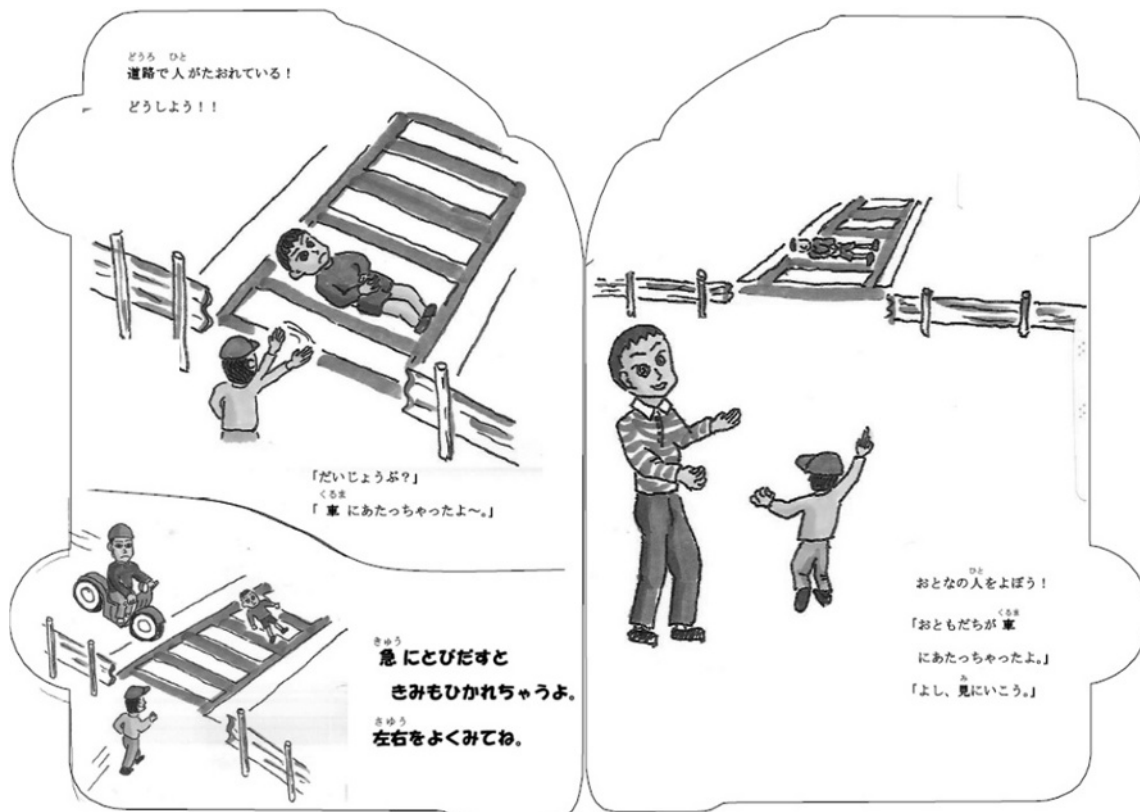
デザイン共通



3 幼児向け 3～4 ページ



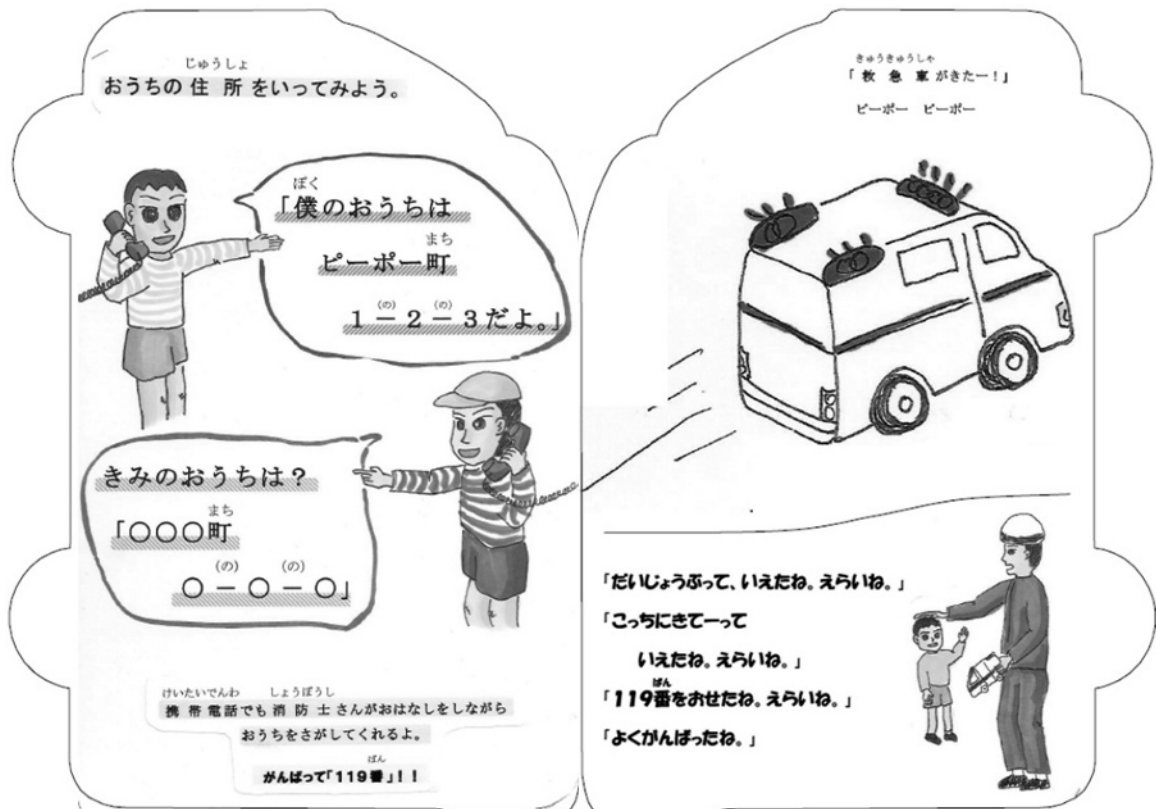
4 幼児向け 5～6 ページ



5 幼児向け 7～8 ページ



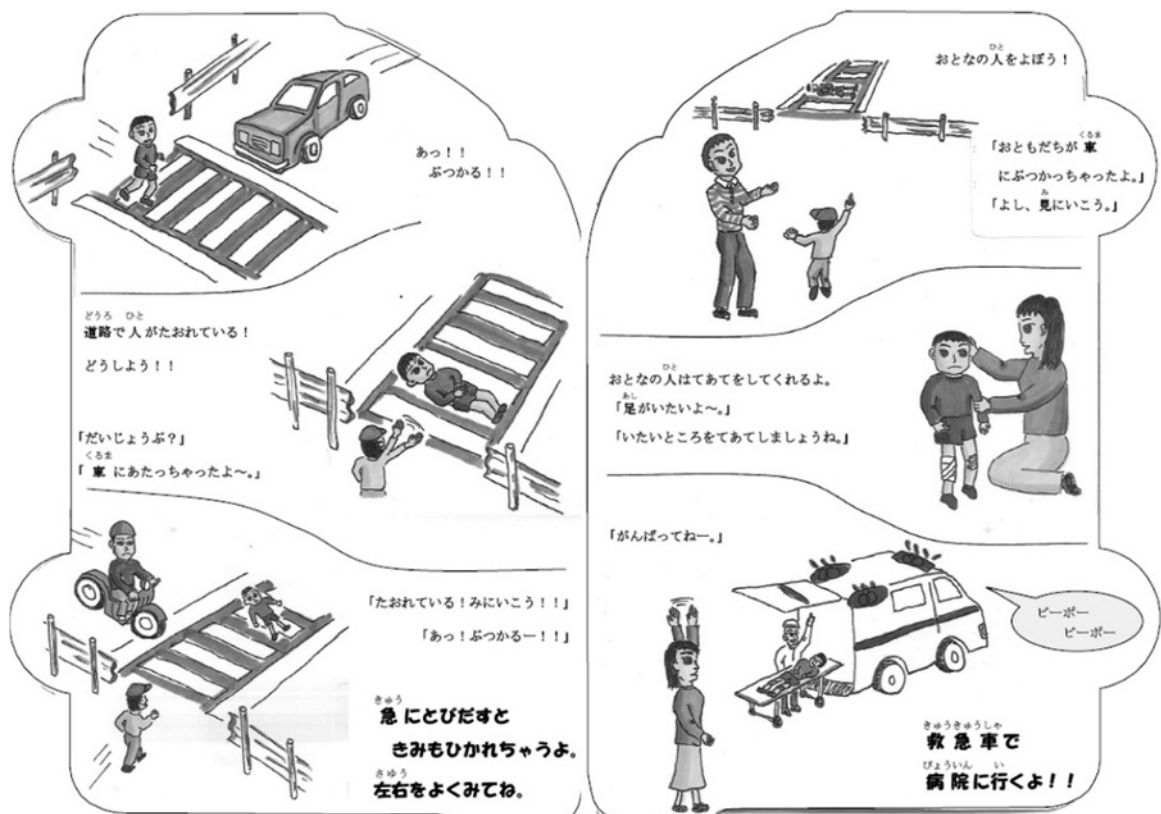
6 幼児向け 9～10 ページ



7 小学生向け 3～4 ページ（こちらから小学生向けの内容に変わります。）

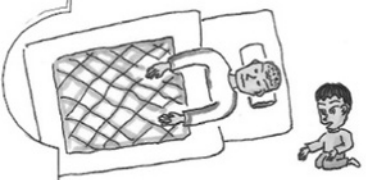


8 小学生向け 5～6ページ



9 小学生向け 7～8 ページ

おじいちゃんくろしそう。
119番でピーポーをよべるかな？

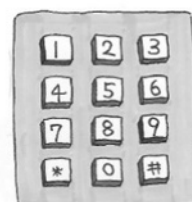


「おじいちゃん
大丈夫？」

みんなのおうちにでんわはあるかな？

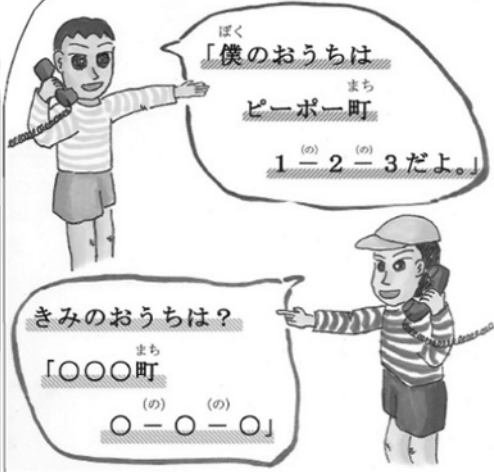


じゅわき
①受話器をとって
②ボタンをおしてみよう。
みぎのボタンをおしてみね。



おうちのでんわなら 住所 がいえなくても、119番で 住所 はつたわるよ。
けいたいでんわ 携帯電話はつたわらないよ。住所 をつたえる 練習 をしようね。

じゅうしょ
おうちの住所をいってみよう。



ぼく
「僕のおうちは
ピーポー町
1-2-3だよ。」

きみのおうちは？
「○○○町
○-○-○」

けいたいでんわ しょうぼうし
**携帯電話でも消防士さんがおはなしをしなが
らおうちをさがしてくれるよ。**
がんばって「119番」！！

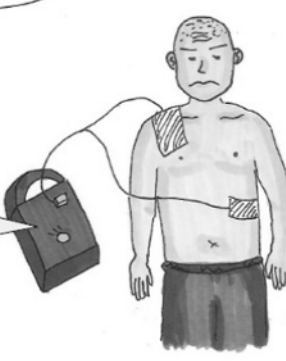
10 小学生向け 9～10 ページ

おとなりのおばさんを
よんできたよ。



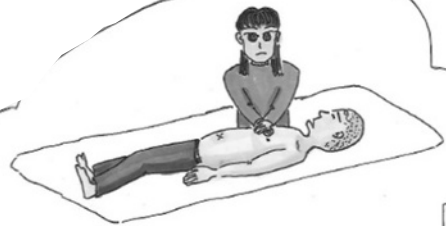
「こっただよー。
おじちゃんが
うごかないよー。」

えーとーでいー
A E D のシールを
おむねにはったよ。



「ピコピコ、ボタンを
おしてください。」

ボタンをおして
げんき
「元気になーれ。」



おむねをおしてしんぞうマッサージ
げんき
「元気になーれ。」

きゅうきゅうしゃ
「救急車がきたー！」
「おじいちゃん
がんばってー！！」
ピーポー ピーポー

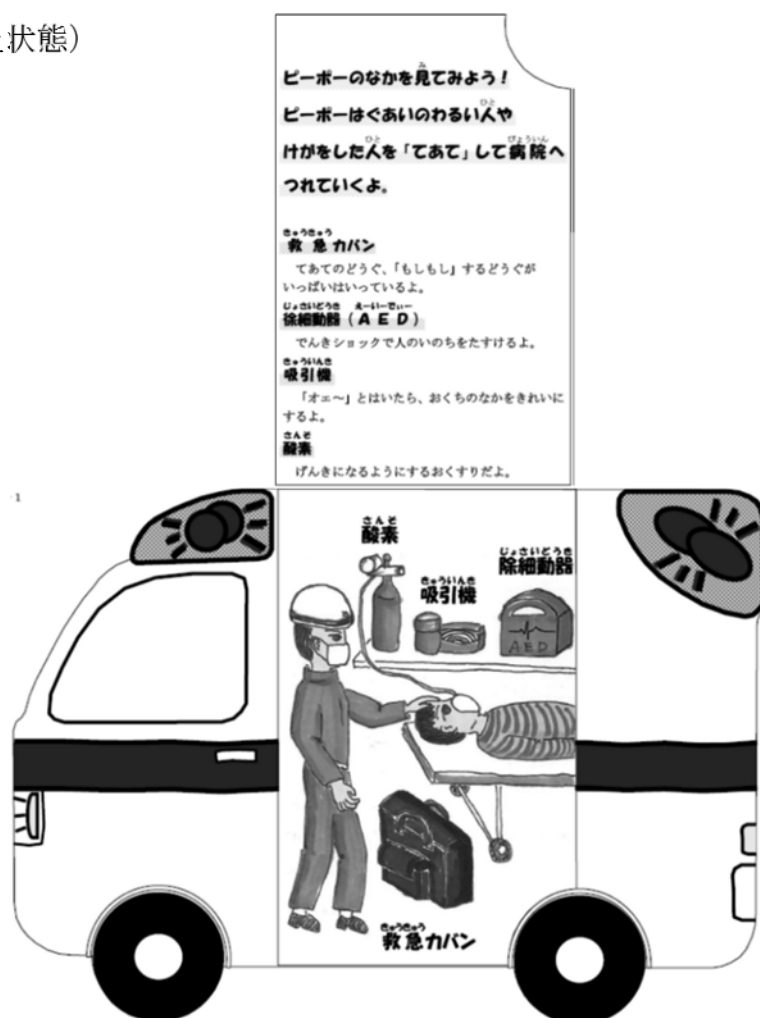


「だいじょうぶって、いえだね。えらいね。」
「こっちにきてーって
いえだね。えらいね。」
「119番をおせだね。えらいね。」
「よくがんばったね。」



(スライドドアを開いた状態)

デザイン共通



1 2 開発機器活用状況

